

大地は10月に開所から14年を迎えます。当時の日課はA M仕事、P Mリハビリと入浴が大きな柱として暮らしが構成されていました。しかし、入所する重度から中軽度の障害のある仲間全員が活動に参加していた訳ではなく、部屋に閉じこもってパソコンをしている仲間、ぬりえやビーズに固執する仲間もいる状況でした。みぬまに関わっていなかった方もいましたので単に仕事やリハビリが大事だから参加しようというだけでは伝わらず、何か別な音楽活動や文化的な活動を通して共同や共感関係を見出し意味合いを分かっていたらよいのではないかと、単調な日課ではなく、療法という取り組み等の中で、楽しみ、心踊るような、体も楽しく動かすことのできる取り組みがないものかと議論をしていた時期でもありました。

アンサンブル企画・清藤先生との出会い

市内で音楽活動を企画する清藤先生が大地に立ち寄り、是非、演奏を生で聞いて欲しい、音楽の持つ生理的、心理的、社会的働きを用いて、心身の障害の回復、機能の維持改善、生活の質の向上、行動の変容に向けて音楽を使う音楽療法を取り入れて

おひさま通信

音楽療法と園芸療法

— 大地 —

も様々です。そのため社会経験や対人関係などの差があります。活動は、①植物は手に取って、形や色、手触り、香りなど五感すべてで楽しみ心も体も活性化させる。②植物を使ったクラフトを取り入れ、創作する楽しさを味わう。③活動を通して、仲間同士また職員とのコミュニケーションを活発にし、共にいる場を豊かで楽しいものにする。④四季折々、花や緑にあふれ心と暮らし環境を楽しむ。⑤水やりや花柄摘みなど、出来る範囲で植物に関わり、施設での生活にリズムと張りを感じてもらおうということを大切にされています。

足話を使いコミュニケーションをとる篠原さんは、両足を器用に使い「土いじり」から「小物作り」まで行います。職員から園芸療法の準備を手伝って欲しいとお願ひすると足を大きく上げ、快く引き受けてくれる頼もしい人です。初めのうちは、先生や職員と土を運んだり、スコップやタオルなどを一緒に準備することが楽しかったようですが、回を重ねるごとに「○○さんはこの道具の方が使いやすい」とか「○○さんは可愛い飾りが好きだから、これを用意しよう」など、仲間の障害や性格、好み等をみて足話で伝えてくれます。

みてはどうでしょう、という提案がありました。それを受けて第1、第3火曜午後の1時間がピアノの生演奏、第2、第4は湯沢先生、加地先生による音楽療法の時間になりました。

音楽療法は、音楽を用いることで音楽と場面を結びつけるようになること、リズムが身体運動を誘発すること、発語が困難でも情緒や感情を表現する場面を作ること等を重点においてプログラムを進めています。

脊髄損傷を患い療養型病院から入所した菊地さんは、部屋で音楽を聴いたり、映画を見たり、リハビリは個別の要求があり馴染めずにいました。しかし、音楽療法での重度の仲間達の笑顔や大きな歌声、楽器を鳴らす様子を見てからは徐々に活動に参加するようになっていきます。発語を促す歌唱活動では、菊地さんが大きな声を出してリードをとりながら、仲間の表情や声を聴いて「○○さんは、もつと歌いたいんじゃないか」「こちらの楽器のほうがいじやすいと思う」等伝えてくれます。音楽療法をきっかけに生活場面でも誰かを思いやる意見が増えていきます。外出の話し合いの時には「○○さんは買い物に行くだけでなく、花を見たり公園に行けると、見るだけでなく香りでも刺激を受けていいと思う

篠原さんは、自分が楽しく準備をする「自分のため」から、皆が楽しく活動できるように準備をする「誰かのため、皆のため」へと意識が変わっていき、仲間とのコミュニケーションが増えていきました。園芸療法とは「植物や植物に関する様々な活動を通して、心身の向上を促す方法」であり、療法の持つ効果と照らし合わせると、より深く仲間との信頼関係を築きたいという篠原さんの願いや心の変化に繋がったと思われま



今後に向けて

大地の仲間たちは、年齢を重ね体調を崩すことが多くなってきました。音楽療法士の湯沢先生は、「年月が経ち老化に対する内容も必要だと

んだけど」と話します。音楽療法をきっかけに菊地さんは仕事やリハビリなどの活動に参加するようになり仲間と溶け込み生活が落ち着いていきました。仲間の代弁をする機会が増えたこと、代弁をしてくれる人がいることでそれぞれの仲間の世界も広がっていつているように思えます。



園芸療法士・白崎先生との出会い

当時、集団に溶け込めない仲間や障害受容が出来ていない仲間等がいたことから、専門的な精神ケアが必要なのではないかと話し合い、探していく中で園芸療法士の白崎先生と出会い、第1・第3金曜午前が園芸療法の時間になります。

大地の仲間達は年齢や障害の程度

感じています。機能維持や促進に対する療法を望んでいる仲間もいて、様々な意見にどう応えていくべきか迷うことがあります。療法に対する期待や心待ちに出来る時間である事に応えていく、日常への還元、生活の質の向上に繋げていくことをきちんと務めていきたい」と話しています。

近年では、第3土曜日の午後1時間を「歌の取り組み」を行うようになり、懐メロや流行の歌を歌う賑わしい時間として位置づいています。

園芸療法の白崎先生は、「園芸活動中の反応が施設での生活にもよい変化をもたらしていると職員さんから伺うことは何より嬉しく、私の励みになる言葉です。園芸療法の活動で行ったラベンダー石鹸が製品作りにつながったことなど、活動は色々試作する場にもなっています」と意欲的です。

近年では、仲間からの要望で、「生け花教室」が行われるようになりました。現在にはじの仲間も加わり「難しいけど楽しい」と言いあいながら花と触れ合い出合いの場にもなっています。

これからも仲間、先生、職員が一緒に頑張っていききたいと思います。

大地職員 上原 淳二

響き

白岡太陽の家にじ

＊開所当初からにじの目玉商品として自信をもってお客様に提供している、冷たいスイーツの『米粉入りレアチーズケーキ』がありましたが、昨年の5月に川口に開店した『らんちカフエ木ぐらし』さんに毎週月曜、木曜の2回納品にしています。お客様には大変好評のお客様も沢山いるとお聞きしました。これからは、レアチーズケーキを美味しいと言ってくれる皆さんのためにますます頑張ります。

シャイン

＊ゴールデン・ウィークの5月3日にお父さんにも参加して頂き、クッキング企画としてカレー作りを行いました。子ども達も両親と一緒に野菜を洗ったり、お米を研いでくれたりして、みんなで作ったカレーを美味しく頂きました。またシャインの畑に、お父さんと子ども達でそれぞれ担当した野菜の種を植えました。今ではぐんぐん成長していて、今から収穫が楽しみです!!

太陽の里

＊7月10日の参院選を前に太陽の里では期日前投票に仲間と一緒に市役所へ行って来ました。真剣に用紙に名前を書く仲間の姿がとても頼もしく見えました。

梅雨の合間の夏日の日曜日に、里に残っている仲間たちとバーベキューを行いました。焼きそばや焼き肉に舌鼓。暑い夏も乗り越えられそうです。

川口太陽の家

＊工房集の外構リニューアルをみんなで進めています。ペンキを塗ったり、手形をつけたり、ひまわりの種を蒔いて毎日水やりしたり、どんどん素敵になっていきます。車イスで裏まで周れるように整備もしました。丁度ひまわりがきれいに咲く9月の作品展にお披露目会をする予定なので、皆様是非お越し下さい。

工房集からのお知らせ

セレクト展

9/1～11 於 工房集
(埼玉県アート企画展プレ企画)

＊10時～17時 (休みなし)

＊カフェオープン

9/3、4、10、11

＊イベント

工房集の庭のワークショップ

・9/4 おひろめ会

・9/5 施設見学会

展示会の見学

13時～16時 定員20名